No.15
平成24年2月1日

自治医科大学附属病院だより

Jichi Medical University Hospital

病院の陥り易い罠

自治医科大学附属病院病院長　**島田　和幸**

皆様が自治医大附属病院を訪れる理由は、身体や心の不調の原因を知りたい、それを現代の医学で治して欲しい、もしも完全に治せないならどうしたらいいのか教えて欲しい、ということだと思います。「病院とは何をするところ?」と問いかけられたら、「困っている人たちの問題を解決するところである」と私は答えます。病院には、そのために医師、看護師など、実に多くの医療の専門職が働いています。病気を診断し、治療し、家族の元へ帰って社会復帰するまでお手伝いする、そのような一連の仕事をチームワークよく成し遂げる。病院を訪れた方一人一人が、どのような疑問を持ち、何を不安に思い、どのような身体や心の不調を治したいのか、その全てに私たち病院職員は応えなくてはなりません。医師は、ともすれば医学的な問題を解決しただけで、ことを済まそうとする“陥り易い罠”があります。看護師、医療技術系職員は、ともすれば業務をきちんとこなすこと、それ自体が目的となる“陥り易い罠”があります。事務系職員には、自分たちの役割を自ら過小評価して、つい消極的になる“陥り易い罠”があります。全ての病院職員は、自分たちの持っている専門技術は、それを応用して患者さんの問題を解決するものであって、それを無理矢理押し付けるものではないことを忘れてはいけません。そのような“ゆとりある”医療を実践する為には、病院は今の何倍かの医療従事者が必要です。同時に、地域内の各々の病院・診療所が機能を十分に発揮し、その上で適正に役割分担や連携をする必要があります。そのためにはコストも覚悟しなければなりません。しかし、病院が皆様の信頼を勝ち得ないことには決してそのような方向には進まないでしょう。我々病院職員の努力する姿を皆様に見せることは、決して無駄にはならないと思います。

目次

▶病院の陥り易い罠 ……1
▶病気を知ろう! 第15回「乳がんについて」……2
▶認定看護師を紹介します ……5
▶Information from the Hospital
「患者サービス検討委員会からのお知らせ」……6
▶トピックス「生殖医学センター」……8
▶お知らせ掲示板 ……9

〈連載〉病気を知ろう！
Do you know the illness?

第15回

乳がんについて

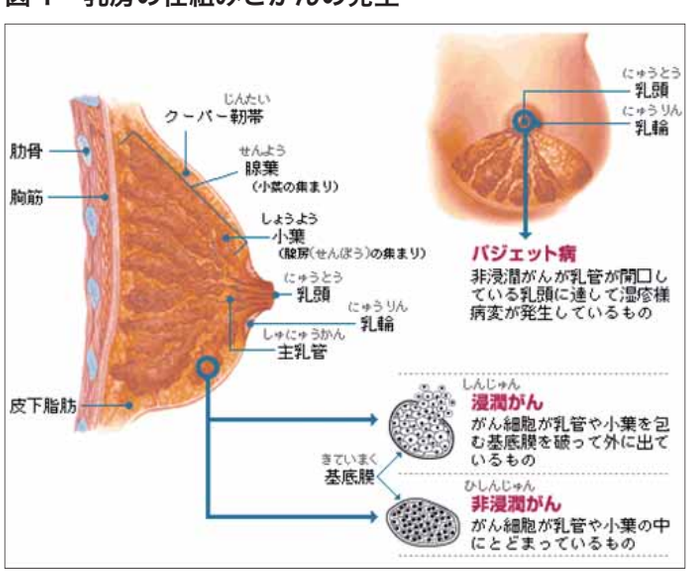
乳腺・総合外科
穂積　康夫

乳がんとはどんなものですか？

乳房は、乳汁を分泌する皮膚の付属器官です。その中には「乳腺」と呼ばれる腺組織とその周囲の脂肪組織、血管、神経などがあります。 乳腺組織は、15-20の「腺葉」に分かれ、さらに各腺葉は多数の「小葉」に枝分かれしています。小葉は乳汁を分泌する小さな「腺房」が集まってできています。各腺葉からは乳管が出ていて、小葉や腺房と連絡し合いながら、最終的に主乳管となって乳頭（乳首）に達します（図1）。

乳がんはこの乳腺を構成している乳管や小葉の内腔（内側）の上皮細胞から発生し、がん細胞が乳管や小葉の中にとどまっているものを「非浸潤がん」または「乳管内がん」、乳管や小葉を包む基底膜を破って外に出ているものを「浸潤がん」と言います。この他に、非浸潤がん（まれに浸潤がん）が、乳管が開口している乳頭に達して湿疹様病変が発生する「パジェット病（Paget病）」があります。

図１　乳房の仕組みとがんの発生



乳がんはわが国では年間約 50,000 人が発症し、およそ 12,000 人が死亡しており、女性のがんでは、2000 年に罹患率（病気になる率）の第 1 位となって、さらに年々増加しています（図2）。わが国では、乳がん発症のピークは 40 歳代後半から 50 歳代であり、そのために後述の乳がん検診は、40 歳超から推奨されております。

諸外国、特に欧米諸国と比較すると、元来日本の乳がんは罹患率、死亡率共に低かったのですが、生活の欧米化に伴い著明に増加してきております。さらに特記すべきことに、西欧諸国では 1990 年を境に乳がん罹患率は上昇しているにも関わらず死亡率は減少に転じております。それに比して日本では今でも、年々死亡率の上昇が認められます（図 3）。先進諸国の中で、乳がん死亡率が上昇しているのは日本だけなのです。一体どうしてでしょうか。

図 2　日本人女性の臓器別年齢調整罹患率の予測

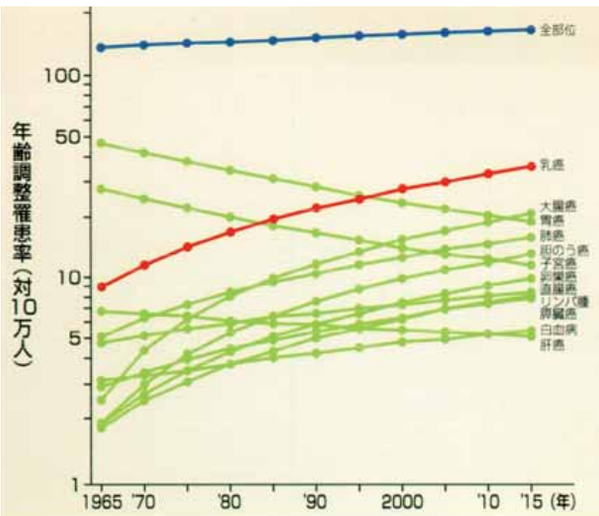
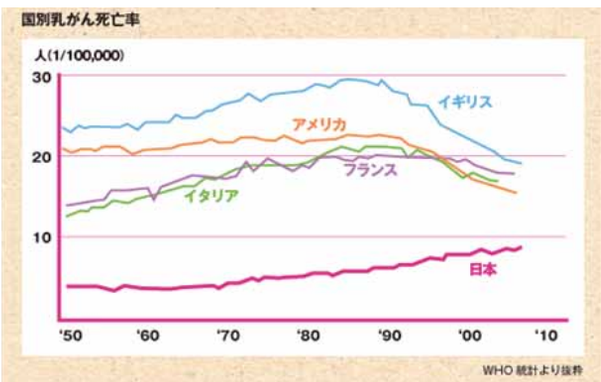


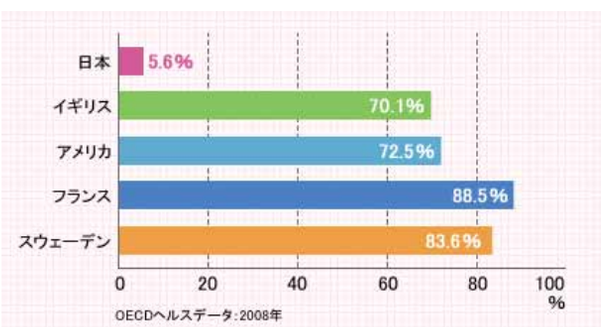
図 3　主要国の乳がんの年齢調整死亡率の動向



乳がん検診を受けましょう

40 歳以上の女性に対しては、1-2 年に 1 回のマンモグラフィによる乳がん検診を受けることが推奨されています。マンモグラフィとは、乳房専用の X 線撮影のことをいいます。マンモグラフィは、触診では診断できない小さなしこりや、しこりになる前の石灰化した微細な乳がんの発見に絶大な威力を発揮する検査法で、乳がんの早期発見に欠かすことのできないものです。従来、わが国では視触診による乳がん検診が行われてきたため、マンモグラフィ検診の普及が遅れてしまい、マンモグラフィ検診低受診率をきたしています（図 4）。

図 4　各国のマンモグラフィー検診受診率



乳がんは、いわゆる「非浸潤がん」であれば、ほぼ100%完治することが可能です。この「非浸潤がん」は、微細な石灰化病変で見つかることが多く、マンモグラフィ検診を受けなければ「非浸潤がん」の大半は発見されることが困難になります。図4のように欧米諸国はマンモグラフィが高受診率であるため、乳がんの罹患率は増えても、「非浸潤がん」の比率が高くなり、そのため死亡率は減少しているのです。その反対に、日本のこの極めて低いマンモグラフィ検診率は、「非浸潤がん」の比率が低くなり、死亡率の減少を来していないという現状を表しています。今でも、マンモグラフィを行わない乳がん検診やドックが横行していますが、これは全くの無意味な検診であると言えましょう。また、マンモグラフィの読影には特別な修練が必要であり、その読影の認定試験があります。受診する検診施設の読影医が認定医であるかどうかも非常に重要になっています。

もちろん、全てに万能な検査法があるはずもなく、マンモグラフィもその例にたがわす、マンモグラフィが不向きな乳房もあります。その場合には、超音波検査を併用した検診が必要であることもあります。いずれにしても、40歳を超えたらマンモグラフィによる乳がん検診を1-2年毎に受診することをお勧めします。

また、しこりを自覚しているにも関わらず、乳がん検診を待って受診する方が時々います。検診は無症状の方が受診するものです。このような症状のある方は、是非、乳腺外来のある医療機関で、マンモグラフィ他の検査を受けることをお勧めします。さらに、検診受診は100%を保証するものではありませんので、月1回程度の自己触診を行うこともお勧めします。この自己触診を定期的に行うことで、以前と違う症状を触知することが可能になります。40歳未満の方は、この自己触診を定期的に行い、しこり等の症状があれば、医療機関を受診することを勧めます。

ここでひとつお願いがあるのですが、当院の乳腺外科はスタッフ数も少ないため、現在病気の患者さんを診察するだけで手一杯の状況であり、紹介状をお持ちでない、検診や検診異常の精密検査などの患者さんは原則お断りしております。検診や検査を希望する方は、医事課の初診窓口で検診や検査可能な乳腺専門医のいる医療機関をご紹介しておりますので、まずはそちらを受診することをおすすめしております。何卒、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

乳がんと診断されたら

前述のように、乳がんは女性にとって最も一般的ながんです。とはいえ、乳がんと診断された場合、多くの人は衝撃を受け、患者さん本人やご家族は一刻も早く治療をと考えます。しかし、乳がんは比較的ゆっくりと進行するもので、一刻を争うというものではありません。治療、特に手術を急かすような医療機関は「?」のつくものの可能性が高いと思われます。立ち止まって、良く考えることが重要です。後述の「患者向けガイドライン」などの質の高い情報にアクセスして、場合によっては、自分の納得するまで、セカンド（サード）オピニオンを聞くことも重要かもしれません。ただし、耳触りの良いことを求めたドクターショッピングは百害あって一利なしでしょう。

乳がんの治療

乳癌の治療には、手術だけでなく放射線、薬物療法（ホルモン剤、抗がん剤）があります。どれが大切と言うわけではなく、これらの治療を組み合わせて行うのが現在の乳癌の治療です。治療に関してはここ20年の間に大きく変わりました。

手術療法では体にかかる負担の少ない縮小手術が主流となってきました。具体的には、乳房の一部を切除する乳房温存手術と、リンパ節の一部だけを摘

出して調べるセンチネルリンパ節生検が多く行われるようになり、入院期間も短縮しております。

放射線治療は手術と同じく、がんとその周辺のみを治療する局所治療です。がん細胞に外から高エネルギーのＸ線をあてて、増殖を抑えたり、死滅させたりします。局所治療なので、全身への影響は少ないのですが、一度照射した部位には再度(一定量以上)照射することはできません。

薬物療法（ホルモン剤、抗癌剤、分子標的薬）は初期治療と再発（転移）治療のいずれに対しても行われます。但し、目的が異なります。初期治療の場合は完全治癒を目指した治療になり、再発（転移）治療の場合、治癒は望めないものの症状の緩和を図ります。

ホルモン療法とは乳がん細胞の発生、増殖に関わる女性ホルモン（エストロゲン）を作るのをおさえたり、エストロゲンの働きを抑えたりして、がん細胞の増殖を阻む治療で、ホルモン感受性のある癌に使用されます。閉経状況により薬剤が異なります。多くは飲み薬で、長期間の服用になることが多いのですが、一般的に副作用は軽微です。

抗がん剤治療は血液やリンパ管を通して全身に散らばってしまった可能性のある目に見えないがん細胞を、薬で攻撃する全身治療です。抗がん剤は、がん細胞を殺すと同時に正常な細胞も壊してしまうため、脱毛などの副作用を起こします。副作用対策は以前と比べて飛躍的に進歩し、現在では殆どの治療は外来で行なうことが可能です。

分子標的薬は、ある特定の分子を標的とした、画期的な薬剤です。トラスツズマブやラパチニブなどがあり、現在、さらに数多くの薬剤が開発されています。副作用は、比較的軽微です。

患者さんのための乳がん診療ガイドライン

乳がん学会の乳がん専門医が総力を挙げて編集・執筆したガイドラインで、患者さん向けに、平易な言葉で書かれている画期的な本です。インターネットなどからの情報は玉石混合で、情報の渦に翻弄されてしまうことが少なくありません。乳がんに興味を持ったら、この本を手にして下さい。

〈連載〉第2回 認定看護師を紹介します

―認定看護師は、特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践ができる看護師として、日本看護協会から認定を受けています。―

乳がん看護認定看護師
軽部　真粧美

乳がんに罹患する女性は年々増加しています。乳がんは、早期発見と適切な治療により治る病気でもあります。乳房自己触診と定期検診で早期発見に努めましょう。

私は、乳がんの治療やケアに携わる専門家（医師・看護師・臨床心理士・薬剤師など）と共に、患者さんが最も良い治療やケアを受けられるようにサポートしています。困ったことや悩んでいることがあったら、いつでも遠慮なく相談してください。

また、院内には、乳がん患者会「ピンクリボン桜の会」があります。1年に5回の会を開催し、講演会や音楽会を通じて、医療者・患者・家族間でコミュニケーションを図っています。乳がんに罹患した患者さんだけではなく、家族や友人などどなたでも参加できますので是非一度お越しください。

Information from the Hospital

患者サービス検討委員会からのお知らせ

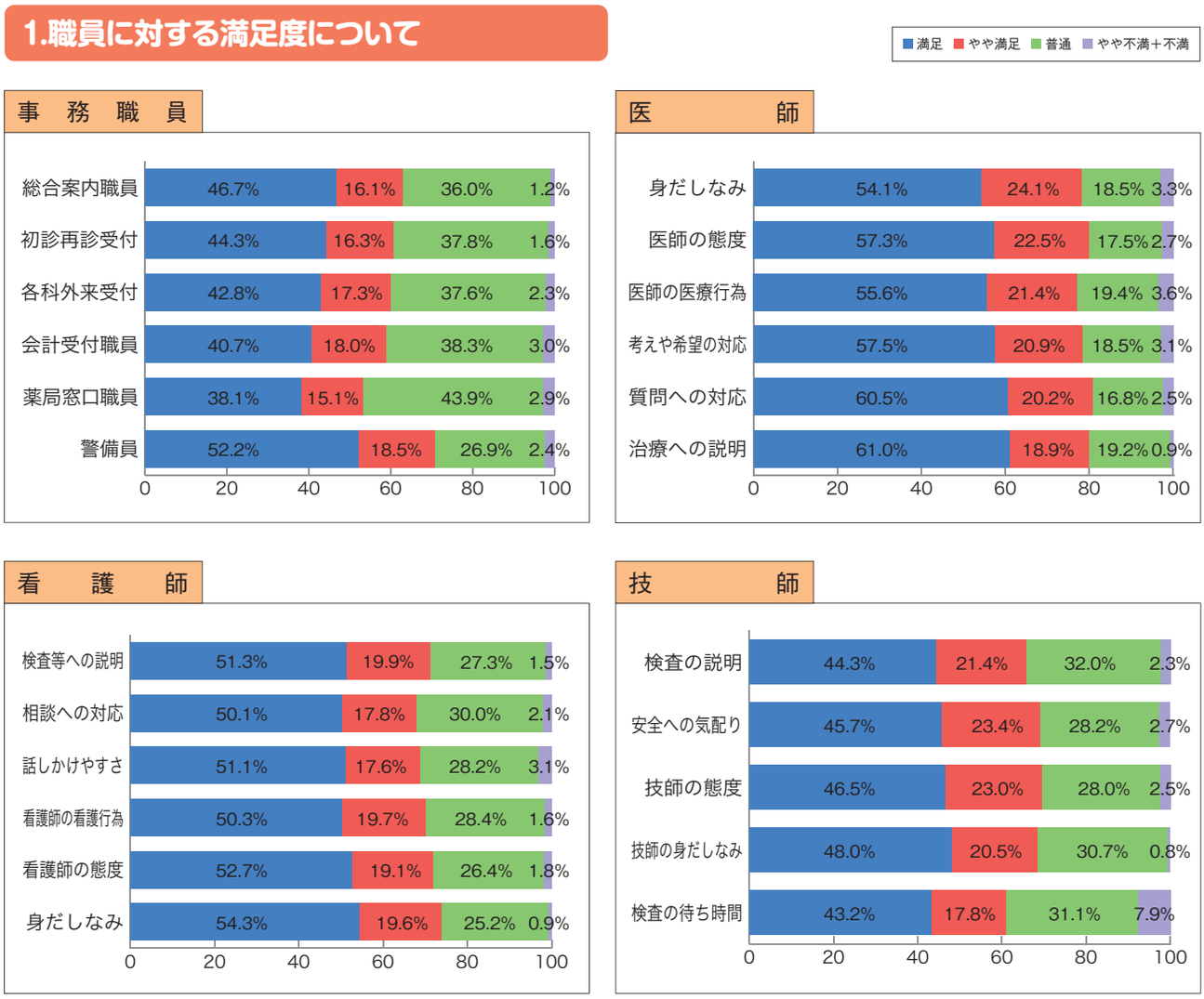
去る平成23年10月13日(木)に、外来アンケートを実施しました。その集計結果をご報告します。

いただいたご意見を真摯に受け止め、今後も更なる患者サービスの向上に努めます。

アンケートに協力していただいた皆様に深く感謝申し上げます。

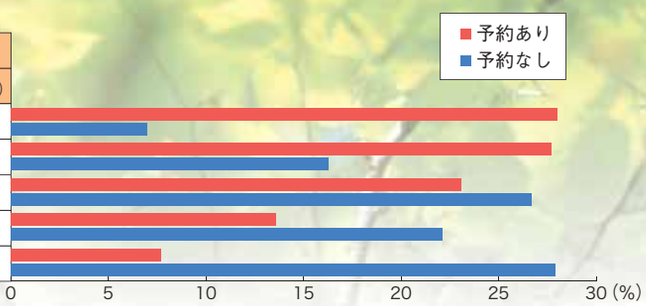
配布枚数2,126枚
(本院:1,948枚・子ども医療センター:178枚)
回収枚数1,345枚
(本院:1,277枚・子ども医療センター:68枚)
回収率63.2%
(本院:65.5%・子ども医療センター:38.2%)

1.職員に対する満足度について



2.待ち時間について

	診察までの待ち時間	予約あり		予約なし	
		件数	割合(%)	件数	割合(%)
①	10分以内	302	28.0	6	7.0
②	30分以内	299	27.7	14	16.3
③	1時間以内	249	23.1	23	26.7
④	2時間以内	147	13.6	19	22.1
⑤	2時間以上	83	7.6	24	27.9
		(無回答165)		(無回答10)	



3.自由意見欄

以下の通り、多くのご意見をいただきました。尚、紙面掲載の関係上、全ての意見を掲載しておりませんのでご了承ください。

	ご意見の内容	返　　答
【診療関係】	●もっと顔を見て診療の説明をしてほしい。	⇒各診療科へ改善を要望します。
【待ち時間係】	●待ち時間が長くて、病気が悪化する。 ●診療開始時刻を守ってほしい。	⇒各診療科へ待ち時間短縮を促します。
【職員の接遇】	●もっと患者の身になって診療を行ってほしい(医師) ●看護行為は思いやりを持って行ってほしい(看護師) ●対応が機械的で冷たい感じがする(事務)	⇒接遇に関しては、各部署ごとに見直しをし改善を図ります。
【Jプラザ関係】	●以前の売店のような品ぞろえに戻してほしい。 ●病院らしい食事の出るレストランがほしい。	⇒該当部署へ返却し改善を図ります。
【設備への意見】	●駐車場が足りないので、駐車に時間がかかる。 ●トイレをもっと新しく・清潔にしてほしい。 ●長い待ち時間を解消させる設備がほしい(図書館等) ●待合椅子が少ない。	⇒いただいたご意見は外来リニューアルの際の参考とさせていただきます。
【その他】	●安心して病院へ通院することができる。 ●大変満足している。 ●以前より良くなっている。	

4.アンケートを終えて…

今年度の外来アンケートは、昨年よりもさらに多くの方の回答をいただくことができました。(参考:平成22年度回答枚数 1,278枚　回答率 60.1%)

満足度に関しましては、多くの項目で満足していただいているという結果になりましたが更なる満足度の向上に努めていきたいと思います。

自由意見で寄せられた設備に関するご意見は、現在進行中の外来リニューアルの参考とさせていただきたいと思います。また、他のご意見(待ち時間・接遇等)についても該当部署へ返却し、改善を進める予定です。

今後とも、自治医科大学附属病院の運営にご理解・ご協力をお願い致します。

トピックス「生殖医学センター」

生殖医学センター　柴原　浩章

Topics 生殖医学センターが移転します。

自治医科大学附属病院産婦人科の専門外来は、大きく産科、婦人科・腫瘍、不妊・内分泌、の3部門からなります。このたび不妊治療を行う専門外来が「生殖医学センター」として独立し、本年3月5日から西棟2階に移転致します。

生殖医学センターでは、月経不順・一般不妊・体外受精・不育症（習慣流産）・内視鏡などの検査や治療に関するご相談を、医師・看護師・胚培養士が担当致します。

不妊外来ではご結婚してお子様に恵まれないカップルに、まず検査で原因をつきとめ、その原因に応じた適切な治療法をご提案致します。治療法は一般的な方法ですが、排卵期にタイミングをあわせる方法、排卵誘発剤の服用や注射、人工授精、体外受精や顕微授精、凍結胚移植の順にステップアップしていきます。子宮鏡や腹腔鏡による診断・治療も行います。なお男性不妊症の方には、当院泌尿器科の専門医師に診察をお受けいただくことができます。

不育外来では妊娠はされるものの、流産を繰り返してお子様を授かれないカップルに、可能な範囲でその原因を検査し、次回の妊娠では流産の確率が低くなるような治療法をご提案致します。

なお当院は不妊症の研究では権威ある日本生殖医学会（旧・日本不妊学会）が認定する、栃木県では現在唯一の生殖医療専門医認定のための研修施設です。これからも皆様方に安心・信頼いただける医療を提供し続けてまいります。

Topics 不妊相談士紹介

私たちは日本生殖医療心理カウンセリング学会認定の不妊相談士（不妊コンサルタント）です。

日本では避妊をせず、普通の夫婦生活を2年続けても妊娠しない状態を不妊症と定義しています。不妊症に悩むカップルは7組に1組と言われています。

妊娠を望みながらもそれがかなえられないことへの不安や焦り、周囲の無理解や干渉は、不妊に悩むカップルに強いストレスをもたらします。また、不妊に対する考え方の温度差や、不妊治療を継続する中で生じるストレスなどが2人の精神的なつながりや性的関係に影を落とす事もあります。

私たち不妊相談士は患者さんの悩みを聞いたり、一緒に考えたりしながら納得のいく自己決定ができるように支援しています。また、最新の医学情報や不妊の症状とそれに対する治療法や種類といった情報提供を行っています。産婦人科を受診する事はとても勇気がいる事ですが、女性の妊娠能力は30代半ばを境に低下しますので、不妊かなと思ったら早めに御相談して下さい。

看護部
田村恵理子、四反田由紀、西脇京子

Topics 生殖補助医療胚培養士紹介

日本哺乳動物卵子学会では平成14年以来、生殖医療で要となる精子・卵子・受精卵を体外で取り扱う胚培養士の中でも、優れた知識と技術、また高い倫理観と品位を備えた者を、生殖補助医療胚培養士として認定してきました。

当院では現在2名の有資格者がいますが、主に精液検査・体外受精・顕微授精や受精卵の凍結保存を担当しています。体外で行うこのような操作では、温度・光・pH等の変化によるストレスを精子・卵子や受精卵に与えることがありますので、十分注意してより妊娠しやすい受精卵に成長するよう心掛けています。

写真は左から、体外受精による2前核形成(受精の成立)、4細胞期胚、8細胞期胚、桑実胚、胚盤胞を示します。

臨床検査部
角田啓道、山口千恵子

お知らせ掲示板

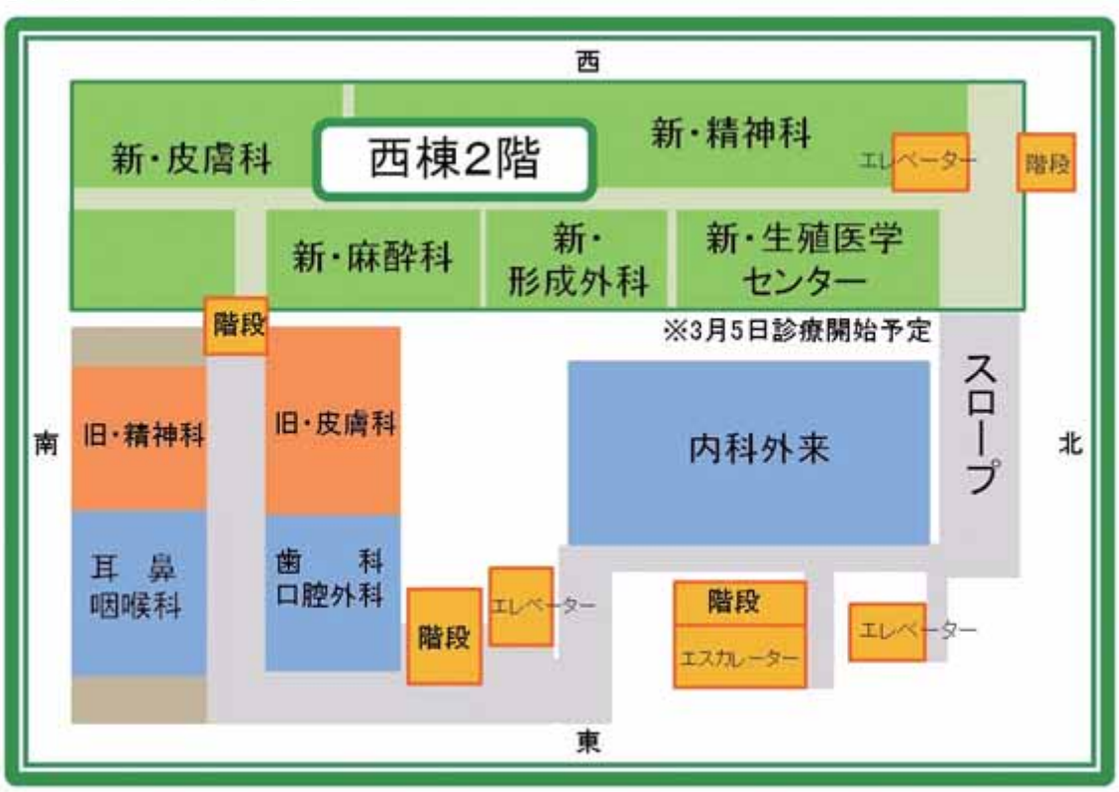
自治医科大学附属病院の各部署のご案内

精神科、皮膚科、麻酔科、形成外科、生殖医学センター外来移転について

1月16日（月）、精神科、皮膚科、麻酔科、形成外科外来が、下図のとおり本館西棟2階に移転し、診療を開始しました。生殖医学センター（不妊・内分泌外来）については、3月5日（月）移転を予定しています。

この移転から始まりました外来リニューアルは、順次対象エリアの改修工事を行っていき、平成28年中の完了を予定しています。工事期間中、患者の皆様には、ご迷惑とご不便をお掛けいたしますが、ご協力の程よろしくお願いします。

［本館西棟2階案内図］



自治医科大学とちぎ子ども医療センター支援基金について

当院では自治医科大学とちぎ子ども医療センターの機能の充実・療養環境の維持向上等を図ることを目的とした寄付を受け入れております。

平成22年度に御寄付いただきました方々のお名前を掲載させていただくとともに、寄付金の使途について御報告させていただきます。

【クリニクラウンの訪問】4回／年実施

クリニクラウンは、入院生活を送る子どもの病室を定期的に訪問し、遊びやコミュニケーションを通して、子どもたちの成長をサポートし、笑顔を育む道化師のことです。

平成22年度寄付受入れ状況

〈寄付金〉

●収入合計金額　801,817円

●寄付者様のご芳名（順不同）

・青木　節子　様

・第39回薬師祭委員一同　様

・CARAチャリティーズ　様

その他、とちぎ子ども医療センターに設置しております募金箱にも多くの方々から御協力をいただいております。

〈現物寄付〉

・おもちゃ（トーマスプラレールセット）　鹿倉　清子様

・イルミネーション機材一式　カルビー㈱様

・タオル104枚（入院患者のクリスマスプレゼントとして）　松岡　恵美衣様

御寄付いただきました方々にこの場をお借りして感謝申し上げます。

なお、随時、御寄付の申込みを受けております。お問合せ等は下記へ御連絡下さい。

主な使途内容

・パネルシアター……1式

・パネルシアター用ソフト……3枚

・ゲーム（Wii）……1台

・ゲームソフト……6枚

・ポータブルDVDプレーヤー……1台

・DVD……10枚

・おやすみ絵本シアター……1台

・紙芝居・大型絵本・児童書……12冊

・コミックス……62巻

・クリニクラウンの訪問……4回

・スカイパーフェクトＴＶ受信契約

・その他、ボランティアの方々の活動費用にも使用させていただいております。

〈連絡先〉　自治医科大学附属病院　経営管理課
電話番号 ☎0285-58-7103 または ☎0285-58-7518
担当　加納、川村

自治医科大学附属病院では 院内助産所 la vie（ラ・ヴィ）を開設しています。

～ 私たち助産師と一緒に新しい「命」を迎えてみませんか ～

分娩には専任の助産師が立ち会い、いざという時には隣接する「総合周産期母子医療センター（母体・胎児集中治療部、新生児集中治療部）」が対応します。

※院内助産所la vie（ラ・ヴィ）でご出産を希望される方は、産科外来を受診し妊婦健診を受けて頂く必要がありますので、詳しいことは下記までお問い合わせください。

自治医科大学附属病院
総合周産期母子医療センター
院内助産所la vie（ラ・ヴィ）
〒329-0498　栃木県下野市薬師寺3311-1
☎0285-58-7210
URL http://www.jichi.ac.jp/lavie

～La vie（ラ・ヴィ）の由来～

フランス語で「命」を意味しており、生まれてくる「命」と、その「命」を慈しむ心を大切にし、応援する気持ちを込めています。

自治医科大学附属病院の理念・基本方針

理　念

1. 患者中心の医療
2. 安全で質の高い医療
3. 地域に開かれた病院
4. 地域医療に貢献する医療人の育成

基本方針

1. 患者の皆様の立場に立った人間味豊かな医療を提供し情報公開を積極的に推進します。
2. 患者の皆様に安全でかつ根拠に基づく質の高いチーム医療を提供します。
3. 地域の医療機関との連携を深め、高度で先進的な医療を提供します。
4. 地域医療に気概と情熱を持ち、全人的な医療を実践する医療人を育成します。

患者の皆様の権利と義務について

【患者の皆様の権利】

1 個人として尊重された上で適切な医療を受ける権利があります。
2 安全に配慮した高度で良質な医療を平等に受ける権利があります。
3 病状や治療内容について十分説明を受ける権利があります。
4 十分な説明を受けた上で、治療方法等を自らの意志で選択決定する権利があります。また、治療方法等について、他の医療機関（医師）にセカンドオピニオンを求める権利があります。
5 申し出により診療録の開示を受ける権利があります。
6 診療に関する個人情報が保護尊重される権利があります。

【患者の皆様の義務（ご協力いただきたいこと）】

1 ご自身と他の患者の皆様の療養環境に支障を来さないよう、法令と当病院の規則を守り、当病院スタッフの指示に従って行動してください。
2 適切な医療を行うために、ご自身の健康状況について出来るだけ正確にお話しください。
3 特定機能病院であり教育機関でもある当病院の役割をご理解の上、医学生・看護学生等の見学・実習・研修にご協力ください。
4 当病院の敷地は、建物内、外周ともに全て禁煙ですので、喫煙は絶対にしないでください。

ボランティア募集

自治医科大学附属病院

●活動日　月～金（祝日除く）
●場　所　自治医科大学附属病院
●内　容　外来中心　診察申込書記入の代筆、院内の案内、車椅子の患者様の介助など

お問い合わせ先
自治医科大附属病院 経営管理課 総務係　**TEL 0285-58-7103**（直通）

とちぎ子ども医療センター

●活動日　月～金（祝日除く）9：00～17：00
●場　所　子ども医療センター
●内　容　外来（案内・見守りなど）
病棟（保育・学習・読み聞かせなど）
作業（手芸・園芸・装飾など）

花咲jii

●活動日　毎月第3又は第4日曜日（午前中）
●場　所　子ども医療センター　外庭
●目　的　美しい花、香りのある木、実のなる樹木を植え、季節感を与え、病気で闘う子どもたちや家族を元気づける
●内　容　花木の埴栽、除草、花床の整備など

お問い合わせ先
とちぎ子ども医療センター ボランティア室　**TEL 0285-58-7815**（直通・鈴木）

ご面会について

＊ご面会の時間は次の通りです＊

本館・新館 ●平日　15：00～19：00
●土・日・祝日　13：00～19：00
（ただし、産科病棟は、毎日 15：00～19：00）

面会の際には、時間を守りましょう。

・ご面会の方は、必ず本館1階総合案内「面会者受付」で受付し、**バッチ**を付けていただき各病棟のスタッフステーションで**許可**を受けてから病室にお入りください。

子ども医療センター 15：00～19：00
・ご面会の方は総合案内にて受付をして、**面会カード**を首から提げて病院の入り口でインターホンを押し、お名前とお子様との関係をお話ください。

※ご面会は決められた時間内に短時間でお願いします。
※大勢でのご面会はご遠慮ください。
※お子様は感染防止のため、お連れにならないでください。

第 15 号
自治医科大学附属病院だより

〒329-0498
栃木県下野市薬師寺3311番地1
TEL 0285-44-2111（代）
FAX 0285-40-6016
URL http://www.jichi.ac.jp

発　行　日／平成24年2月1日
編集・発行／自治医科大学附属病院
病院事務部 経営管理課
印　　刷／（株）松井ピ・テ・オ・印刷